

中根博士の図説(1963)もあり、林 長閑博士も原色で図説しておられ(1975)、成虫、幼虫、ともに昆虫を捕食するものと思われると記しておられる。

ところで、兵庫県下での記録は三木 進氏のものが始めてあると思われる(きべりはむし, Vol. 5, No. 1/2: 17-18, 1977)。三木氏の記録は野外での採集でなく、三田市でネムノキ枯枝から羽化したものである(28-IV-1975)。その後全く記録は無かったように思う。筆者は1980年6月10日神戸市内の烏原で叩き網で1♂を採集した。以上2つの記録は一応発表しておいた(Irattsume, No. 6, P. 38, 1982)。本年も1♀を烏原で採集出来た。これも網で樹の枝先をすくって得たものである(1983年6月1日)。

前にも書いたようにハムシダマシに良く似ているので見逃されているのではないだろうか、県下にはもっと他の地にもいると思われる。今の所2ヶ所しか知られていない。まして生態の片鱗もつかめていない。なんとか調査をして見たいものだとつねづね考えている種の一つである。

ムネアカチビナカボソタマムシ神戸市内に産す (兵庫県甲虫相資料・139)

高 橋 寿 郎

1983年7月4日神戸市烏原で灌木を叩いて採集していたら始めて見るタマムシが入って来た。帰宅後調べて見たらムネアカチビナカボソクマムシ *Nalanda rutilicollis* (Obenberger, 1914) の♂であることがわかった。可成り分布の広い種であるが、本州では関東以西に見られる種のように幼虫はアカメガンツを食べるとなっている。所で筆者の調べた範囲では兵庫県下からの記録の無い種であったので、此処に記録しておきたい。

イボタサビカミキリ兵庫県下での記録 (兵庫県甲虫相資料・140)

高 橋 寿 郎

イボタサビカミキリ *Sophronica obrioides* (Bates, 1873) は Bates が長崎を産地に *Lasiapholes* 属で記載されたカミキリである(Ann. Mag. Nat. Hist. (4) XIII, P. 382)。

兵庫県下からの記録は戦前 関 公一氏が *Lasiapholes obrioides* の学名で1941年住吉村（自宅）を採集地として記録されたのが初めてだと思われる（昆虫界, № 89, P.455）。データはついていない。この記録を発表された時、関氏のお宅は武庫郡住吉村字瀬川1302になるとと思われる（昭和14年のお手紙が手許にあるし昆虫界, № 88, 1941にもこの住所が出ている）。確か住吉小学校のそばであったから今の住吉東町になるのかもしれない。何回かお邪魔したことがある。近所に米谷正司氏のお宅もあった。当時はまだまだ淋しいと言うか余り人家が建て込んでいなかった時代である。しかし何分にも記録としては古いものである。

戦後美方郡浜坂での記録が高橋 匡氏によってされている（Iratsume, № 4, P.23, 1980）。たゞこちらでもデータが無く場所も漠然としている（このように珍しい種に就いては簡単なコメント及びデータ等は是非つけて頂きたいものである）。穂積氏はこの記録が日本海側の東端の記録になるとされている（昆虫と自然, 16巻, 10号, P.10, 1981）。

県下の記録は以上があるだけで少くとも県下では珍品に属するように思われる。

実は筆者1963年6月30日1♂を市内の鳥原で採集していたのであるが、今1つ同定に自身もてずそのままになっていた。所が1983年になって同じ鳥原で7頭採集することが出来て本種に間違いないことがわかったので此処に報告しておきたいと思う（1♀, 14-VI-1983, 1♀, 22-VI-1983, 1♂, 1♀, 23-VI-1983, 1♂, 1♀, 23-VI-1983, 1♂, 13-VII-1983）。

1963年の方の採集はどのようにして得たか、記憶にないが1983年のものは道路上に大きく張り出したコナラにたくさんのテイカヅラがまつわりついてそれを網で無闇矢鱈にゆさぶって採集したものである（植物の同定をして下さった岡村はた博士に厚く御礼申しあげる）。貯水池畔の舗装された道路につき出たようにして延びているコナラの樹をゆすっていると朝の登山会の連中がよって来て“何をとっています”と五月蠅いこと。長い柄の網で毎日の様に山に出掛けるが会う人々が大体“何をとるのですか”との質問攻めに会う。貯水池が近くにあるから“魚をとるのですか”この網では魚をとれない。“鳥をとるのですか”鳥がとれたら面白いだろうが—。“虫をとります”と言うと“なるほど鳥の餌とりですか”。日本人の昆虫採集に関する理解度はこの程度である。約50年間進歩していない。閑話休題。

この種に就いては小島, 林両博士が“4-8月暖帯林帯のつるの枯れたもの集る”と書いておられる（1969）。案外と多くいるのではないだろうか。灯火にも飛来すると書いておられる。

ところで、林博士が“あらげかみきり族”の解説をされた報文中で（Nature Study, Vol 5, № 4, P.48-50, 1969）、キイロアゲカミキリ *Penthides rufolanus* (Hayashi, 1957) が“兵庫県下で発見されたと言う”との記録をしておられる。この種が兵庫県に産するとされたのは実はこの報文が唯一のものゝようで（辻氏が言及されているのもこの報文によったものではないだろうか。月刊むし, № 10, 1972）、詳しいデータを見たことが無い誰か兵庫県での産に就いて御承

知の方があれば御教示頂きたいと思っている。

兵庫県産蝶類に関する一番古い文献

高橋 寿郎

筆者は1982年姫路昆虫同好会機関誌“てんとうむし”№8誌上に“兵庫県産蝶類に関する文献目録”を発表させて頂いた。最近八王子市の猪又敏男氏から兵庫県産蝶類に関する一番古い文献と思われるものとしてその報文のコピーをわざわざ御送り頂いた。拝見した所成程神戸からの5種の蝶の記録がふくまれているもので文献としてはやはり一番古いもの、ように思われるので此処に紹介すると共に猪又氏の御好意に対して厚く御礼を申しあげさせて頂きたい。

1882. A. G. Butler. On Lepidoptera collected in Japan and the Corea by Mr. W. Wykeham Perry.

Ann. Mag. Nat. Hist. (5)9 : 13-20

表題のごとく W. W. Perry が日本と朝鮮で採集した標本を British Museum に寄贈したものに基き同博物館の A. G. Butler がまとめた報文である。4新種の記載(全部朝鮮産であるが、1種のみ函館産1♀がふくまれている)をふくむ38種の蝶が記録されている(図は無い)。

日本では函館、横浜、神戸で採集したとある。採集者の Perry に就いてはどの様な人であったのか、筆者にはよくわからない。神戸からの採集品は Butler にとっては初めての資料であったが、たいして興味のあるものはいなかったと始めに書いている。採集が全部1881年(明治14年)7月であり、この時代の神戸とは恐らく海浜にのぞんだ平地でごく未開の平凡な地(山地では採集していないと思われる)での採集だと考えられるから採集時期と共に条件が大変悪く、期待する方が無理であろう。

神戸からの記録は次の種である。

p.14. (2). *Satyrus bipunctatus* Motschulsky ジャノメチョウ

現在日本産は *Minois dryas bipunctatus* Motschulsky とされている。

p.17. (7). *Everes hellotia* Ménétrières ツバメシジミ

現在日本産は *E. argiades hellotia* Ménétrières とされている。